

信頼される製品を

早川 「水道水の現状と問題点」をお話します。まず水道水ですが、非常に安全です。私は大学に移る前にWHOで水質のガイドラインづくりをやっています。

世界の水道に関わってきたわけですが、日本の水道は基準が厳しいだけであく、きちんと守っています。水道の特徴は塩素消毒した水を蛇口から出すということです。遊離残留塩素が最低0.1PPMないといけません。塩素は一般に浄水場に入れますが、浄水場から遠い地域を0.1にする

ためにはたくさん入れないといけない。すると近くの人にはカルキ臭が強くなる。これが嫌がられる理由の一つです。そこで少しずつ途中で入れ、濃度をあげないようにしています。

水道管にはきれいな水が流れているのに、蛇口をひねるとなぜ金気があったりするのかが、原因は水道の給水方式にあります。高層の建物ですと一たん受水槽に入れて、これを高置水槽に揚げて、それで水を供給します。この貯水槽の管理が問題です。厚労省の科学研究費をいただいて実態調査を

貯水槽管理に問題が

したところ、貯水槽容量が10トを超える大きなもの、これは20所帯以上の集合住宅ですが、これは法律で検査や清掃が義務づけられています。しかし2割以上が検査すら受けていません。それより小さいのは全くの未規制です。貯水槽水道は日本全国で110万施設もあります。一つ一つを行政がチェックするのは至難の業です。

このため管理の悪い給水装置を経由して皆さんの蛇口に水が着く場合があります。そうすると、水道局がきれいな水を送っても、水質は途中で悪くなります。給水装置は水道局の施設ではなくて、建物のオーナー

の施設なので、皆さんの建物で水を悪くしておいて、浄水器を使う、こういう悪循環があります。

ところで、私はWHOでガイドラインをつくる時に「水安全計画」を考えました。上流から蛇口まで、それぞれのプロセスでのリスクを考え、上流でトラップがあってもマルチバリアで水の安全を図ろうという考え方です。水安全計画の中では、浄水器は最後のファイドとして位置づけることができます。

それからもう一つ、浄水器を通して水は残留塩素がありません。塩素が多い水はお茶には適さないし、料理も塩素の低い水がいい。



早川 哲夫氏

麻布大学 生命・環境科学部教授。京都大学大学院修了後厚生省入省、環境庁、WHOなどで水道・廃棄物、環境行政に従事。平成12年から麻布大学教授。

だから塩素を除きたいのは分かりませんが、残留塩素は細菌の繁殖を抑えますので、浄水器を通して水は早く使っていた方がいい。それから、食器とか野菜洗浄にはむしろ残留塩素があった方がいいわけです。

もう一つ、これは京都大学の医学部の先生が、うがい風邪が予防できるのか。02年から03年の冬に、全国18地域で調べました。ポランティアの人387名を募って、うがいしないグループと水道水でうがいするグループ、ヨード液のうがい薬を使うグループの比較をしました。その結果、うがいをしない場合に比べて水道水のうがいは発症率が40%も低下する。ヨード液うがいは12%の低下にとどまったということです。理由はヨードの殺菌効果が強過ぎて、有益な細菌まで殺してしまわうらしいのです。

水道は塩素の濃度が適当であるとという結論です。塩素をそんなに悪者にしないでほしいですね。

私は浄水器を使いません。その理由は、カートリッジを定期的に交換しないといけないからです。永久に効果があるのではなくて、交換しないとかえって水質が悪くなるおそれがあります。

私は国民生活センターの委員でもあり、訪問販売とか商品テストにも関係しています。これは浄水器協会にお願いをしたいのですが、浄水器が訪問販売で問題になるケースがあります。この協会会員はそうした商法を排除し、信頼される製品を送り出しているということなので、今後とも高いモラルを志向していただきたいと願っています。

※掲載許可取得済

日本水道新聞社に無断で転載することを禁止します。